

研究報告 2

令和4年度 研究プロジェクト②

「新入生サポート・プロジェクト」

内山登紀夫・西牧陽子・保科保子・黒田大貴

概要：本研究は、英国バース大学との共同のもと、自閉症スペクトラム（以下 ASD）のある大学生を対象にグループプログラムによるサポートを実施し、その予防的介入効果を検討することを目的としている。今年度は、昨年度に引き続き本学新入生を対象にアンケート調査及び問題解決グループを実施した。

また昨年度までは、カウンセリング研究所相談員を中心にグループ運営をしていたが、本学における新入生（特に発達障害を持つ学生）への支援のひとつとして継続的にグループを実施していくために、学内で実施者やサポーターを増やしていく必要がある。そのため今年度からは、日頃の業務で学生支援に興味関心を持つ職員にも、サポーターとしてグループに参加してもらった。

研究全体のマネジメントはバース大学が担っており、国内での実施に際しては、バース大学の研究予算（ジョン&ローナ・ウィング基金）の一部を受けて実施された。

1. 方法

2022年度入学の新入生を対象に協力者を募集し、アンケート調査とグループセッション（週1回、全7回）を実施した。アンケート協力者は21名、うち5名がグループセッションに参加した。グループファシリテーターは保科、黒田が務めた。

なお、本研究のマネジメントは英国バース大学が担っており実施経費の一部はバース大学研究予算の助成を受けている。今年度は69,279円を大学に納入した。

<スケジュール>検索

- ・ 4月 : 参加者募集, 事前アンケート実施
- ・ 4月中旬 : 第1回 質問紙調査
- ・ 5月～6月 : 問題解決グループ<前期>実施 (3グループ, 各7回)
- ・ 7月 : 第2回 質問紙調査
- ・ 1月 : 第3回 質問紙調査

2. 結果とまとめ

今年度はエントリーする学生が少なく、グループの存在をどのようにして学生へ周知するかが今後の課題となった。終了後インタビューでは、「頭の中が整理しやすくなった」、「(悩みを) ひとりで抱えている感がなかった」など、グループ参加の効果への言及が多く、満足度は高かった。

またサポートとして参加した職員からは、「窓口の応答では聞くことのできない学生の困りごとを知ることができた」、「人によって出来ることと出来ないことが違うんだな、と感じた」など、実際に参加したことによって学生に対する理解の深まりや、グループの効果についての言及があった。

なお、学生支援の観点からもグループ実践の意義が認められたことから、来年度もグループ実践を中心に継続予定である。

